

第6学年総合的な学習の時間 「グリーンタイム」学習活動案

日時 平成17年10月5日(水)2校時
児童 第6学年 男7名 女4名 計11名
指導者 宮澤 広光

1 単元名 「伝えよう ふるさとの人々の思い ~植樹祭での活動をとおして~」

2 単元のねらい

植樹祭や地域の方へのアンケートを行い、アンケートの内容を比較したり検討したりするなかで、追究の視点(植樹祭にもっとたくさんの人に参加してもらうためのパンフレット化)を明確にして課題を設定することができる。(発見する力)

「森は海の恋人植樹祭」を中心に必要な資料を集め、整理したり、比較したりしながら、効果的に活用することができる。(追究する力)

それぞれの追究課題について、調べたり体験したりしたことを、各教科で学習したことを活かし表現することができる。(表現する力)

地域の人・歴史・伝統・文化との出会いを通して、郷土を大切にしていこうという自分なりの思いをもつことができる。(生き方を考える力)

3 単元について

(1) 児童について

6年生の総合的な学習を始めるにあたり、5年生のときの学習を想起しながら、室根村のいいところや植樹祭での体験を話し合った。室根村はきれいな川、緑の森など自然に囲まれた豊かな環境であること、植樹祭は、他地域にも自慢することができる豊かな自然を育むことを目的とした素晴らしい活動であることなどが話題の中心となった。この話し合いから、児童は、室根山や大川、ひこばえの森を始めとする室根村の豊かな自然に誇りをもっていることが感じられた。

また、児童の家族の半数以上が植樹祭の運営に直接関わっていること、児童自身も、4年生のときからの植樹、打ち囃子でのこども太鼓と植樹祭にかかわる機会が多いことから、植樹祭を身近なものとしてとらえている。

本単元では、単元のねらいと4つの力について示しているが、これらの力を人とのかかわりを中心に身に付けさせたいと考える。特に、「生き方を考える力」は、5年生までの地域に関わる総合的な学習の時間の活動や、本単元の追究活動の中で明らかになっていく自分たちを育ててくれた地域の文化やたくさんの人とのかかわりを実感させながら身に付けさせていきたいと考える。

オリエンテーションやアンケートなどで児童の実態をみると、「インターネットや本で情報を集めること」や「インタビューなどで人と関わること」に関して好意的に受け止めている児童が多かった。

しかし、「課題設定すること」、「メモを取り活動に活かしていくこと」、「集めた情報をまとめ新聞などに表すこと」、「発表すること」の4点については、苦手意識をもっている児童が多い。

そこで、本単元の導入として「森は海の恋人植樹祭」では2~3人のグループを作り、参加回数、どこから来たのか、植樹祭についての印象などについて参加者の方にインタビューを行った。そこで集めた情報をまとめ比較・検討させることになり、「なぜ、植樹祭で室根の人とあまりであわなかったのだろう?」という疑問をもとに全体のテーマを設定し、個々の追究課題を設定させていった。

さらに、もっとたくさんの室根地区の人に来てもらえるように伝えるための手段としてパンフレット化を提案することで「集めた情報をまとめ新聞などの発表物に表すこと」、「発表すること」の

2点について、視点を明確にし活動を進めることができると思う。

活動のまとめの段階では「たくさんの人が植樹祭に来たくなるようなパンフレット」を念頭に、情報の受け手を意識したパンフレットをつくり、室根地区の方々に伝える活動を行っていきたい。このことを通して、伝統ある植樹祭がこれからも続いてほしいという思いや、ふるさと室根の自然をみんなで大切にしていこうという故郷である室根の未来の展望についての提言をもてるようになるのではないかと考える。また、情報や提言の一方的な伝達とするのではなく、お世話になった方へ手渡し、評価や励ましを返していただくことで、子ども達自身が地域の一員として生活していることの実感をもつことができる機会となるように学習活動を進めていきたい。

(2) 単元の構想

課題設定場面では、まず、単元のテーマを確認した後、自分の課題を設定することを念頭に、室根山の山開きや「森は海の恋人植樹祭」に参加し、地域の方々のお話を聞いたり、アンケート活動を行ったりする。また、植樹祭の経験の有無や植樹祭をどのように捉えているかなどについて村の人に街頭アンケートを行う。次に2つのアンケート結果を比較、検討する話し合い活動を行う。この話し合いの中から、もっと植樹祭のことに詳しくなって、もっともっとたくさんの人に植樹祭に来てもらえるように自分たちからも植樹祭のことを紹介、発信したいという願いをもたせ、個々に追究課題を立てさせる。また、発信には、多くの村の方々に見ていただく目的にあわせパンフレットを提案する。追究活動でもパンフレット化を意識した活動が必要になってくることを確かめる。

追究する段階では、似通った追究課題をもつ児童で3つのグループにつくり、活動を行う。

植樹祭の歴史そのものを追究していき、植樹祭17年の歴史を紹介したいと考える「歴史グループ」植樹祭に関わる人や植樹によって栄養に富んだ川になったといわれる大川の周囲に住む人たちのかかわりを調べ、植樹祭がたくさんの人たちにかかわっていることを知らせたいと考える「人グループ」参加者が参加しやすいようにするためにはどんなことができるかを考えていききたいとする「今グループ」で追究活動を行う。植樹祭を支える12区自治会の方のお話をお聞きしたり、地域の方へのアンケートを行う中でたくさんの方々とかかわりをもたせることで、今まで直接見ることのできなかった植樹祭の一面を知らせ、追究活動そのものへの成就感を高馬手生きたいと考える。また、パンフレットの作成を意識して調査活動に臨ませることで、インタビューの内容から必要な写真や図などパンフレットの具体について考えさせ、追究活動を進めさせていく。

「発表の場面」では、課題追究までの活動で集めた情報や資料をまとめ、「たくさんの人が植樹祭に来たくなるようなパンフレット」を念頭に、情報の受け手を意識しパンフレットをつくる。パンフレットは、村の施設やお店などに多くの方に見ていただける場所に置いていただき、室根地区の方々に伝える活動を行う。しかし、情報や提言の一方的な伝達とするのではなく、パンフレットの内容や児童の提言について励ましをいただいたり、評価やを返していただけるようお願いしていきたい。地域の方やお世話になった方から反応を返していただくことから、児童は、この単元で学習してきたことに対するの成就感をもち、地域の一員として生活していることの実感をもつことができるのではないかと考える。

4 本時の学習活動

(1) 活動名

「中間発表を聞きあおう」 2 / 3 時間目

(2) ねらい

グループの発表を聞き、それぞれのグループの考えやパンフレットに入れたいことなどに対して、自分なりの意見や感想をもつことができる。

(3) 本時の評価規準と具体的評価規準

観点	評価規準 「評価方法」	具体的評価規準	指導を要する児童への具体的支援
表現する力	共感する点を見つけたり、アドバイスしたりしながら、友達の発表を聞くことができる。 「発表・学習カード」	グループの発表を聞き、それぞれのグループの考えやパンフレットに入れたいことなどに対して、自分なりの意見や感想をもつことができる。	学習カードを活用し、分かりやすさ、よさをチェックしながら各グループの発表を聞き内容を確かめていくことを声をかけ促す。

(4) 展開

段階	活動内容	指導上の留意点 評価 支援	準備物
つかむ 3分	1 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">中間発表を聞きあおう</div> 2 本時の活動のめあてを提示する。 ・ グループの発表を聞き、パンフレット作りに向け感想を交流し合う。	前時までに発表に向けて調査内容を確認し発表の練習を行っている。聞き手を意識した発表についてグループ毎に評価しながら取り組んできたが、本時は目の前の聞き手の様子も意識しながら、発表が進められるように声をかけたい。	・ 紙板書 (テーマ名、本時の課題) ・ グループの発表物 (模造紙)
みとおす 37分	3 グループ毎に発表し合いパンフレット化に向けて意見を交流する。 (1) グループ毎に発表を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">【発表内容】 グループの中心課題 調査した内容 調査を終えて考えたこと [提言] グループとしてパンフレットに入れたいと考えたこと</div> (2) 学習カードに感想をまとめる ・ 発表したグループへ感想を書く。 分かりやすさ(理由)への評価 質問・その他(気づいたこと) (3) 感想を発表し、交流し合う。 ・ コメントをもらったら、もらったグループは、返事を返しながら進める。 コメントの例 ・ を考えたのはすごいなあと思った。 ・ について、僕も同じように考えた。 ・ をパンフレットに入れるのはよい。 ・ 僕ならば を付け足したいがどうか。	進行は、教師が行う。 発表中に気づいたことやメモしておきたいことはその都度評価カードに記録してもいいことを知らせる。 発表に対して感想をもちやすいように、評価カードを用い、各グループの発表後に感想等を記入できるように声がけを行う。 コメントは、質問や気づいたことを発表させる。 各グループ発表(調査内容や提言、パンフレットに入れたいこと)を聞き、内容のよさや共感できることなどについて、自分なりの意見や感想をもつことができたか。 (発表・学習カード)	・ 評価カード ・ 指示棒

	4 評価カードを受け取り,グループ内で発表の様子や内容について振り返る。	評価カードの集計を行うとともに,コメントの内容を確認させ,改善点など見直したほうがいいところはないか考えさせる。	
ふりかえる3分	5 活動を振り返り,学習プリントの自己評価欄に記入し,発表する。 6 次時の活動を確認する。	今日の活動で考えたことと合わせ,これからの活動に向けての思ったことも書いてよいことを知らせる。 ・ 次時は,本時のコメントなどを参考にしながら,グループ毎に検討行うことを知らせる。	・学習カード

<p>み と お す</p> <p>37分</p>	<p>3 グループ毎に発表し合いパンフレット化に向けて意見を交流する。</p> <p>(1) グループ毎に発表を行う。 1グループ7分×3グループ=21分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【発表内容】</p> <p>グループの中心課題 調査した内容 調査を終えて考えたこと[提言] グループとしてパンフレットに入れたいと考えたこと</p> </div> <p>・提言の理由など発表後に分からないことがあったら、質問をし、確かめる。</p> <p>(2) 学習カードに感想をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのグループへの感想を書く。 提言について パンフレットに入れたいと考えたこと その他(気づいたこと) <p>4 それぞれの感想を確かめ、交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コメントをもらったら、もらったグループは、返事を返しながらかを進める。 コメントの例 <ul style="list-style-type: none"> ・ を考えたのはすごいなあと思った。 ・ について、僕も同じように考えた。 ・ をパンフレットに入れるのはよい。 ・ 僕ならば を付け足したいがどうか。 	<p>感想をまとめる時間を全グループ発表後にもつことを知らせ、発表に臨ませるが、気づいたことや感想はその都度学習カードに記録してもいいことを知らせる。</p> <p>発表に対しての感想をもちやすいように、聞く視点として以下の3点を示しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表を聞いてよく分からないところはどこか。 ・ 各グループの提言のよさはどこか。 ・ 発表を聞いて共感できるところがあるか。また、付け足してパンフレット作りを進めていったほうがいいのか。 <p>各グループ発表(調査内容や提言、パンフレットに入れたいこと)を聞き、内容のよさや共感できるところなどについて、自分なりの意見や感想をもつことができたか。 (発表・学習カード)</p>	<p>・学習カード ・指示棒</p>
<p>ふりかえる3分</p>	<p>5 活動を振り返り、学習プリントの自己評価欄に記入し、発表する。</p> <p>6 次時の活動を確認する。</p>	<p>今日の活動で考えたことと合わせ、これからの活動に向けての思ったことも書いてよいことを知らせる。 (発表・学習プリント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、本時のコメントなどを参考にしながら、グループ毎に検討行うことをしらせる。 	<p>・学習カード</p>